

# オタドリ沼の鳥

小杉和樹

はじめに

オタドリ沼は四季を通して鳥類を観察することができ、特に春季、秋季の渡り期には多くの旅鳥が訪れ、利尻島の中では最も鳥相が豊かな地域である。又、この地区は利尻島の数少ない湖沼地帯として、観察される種も水鳥類等を中心に特色のあるものとなっている。

そこで、オタドリ沼の状況と併せて1987年～1988年までに観察された鳥類についてまとめてみた。

## 1. オタドリ沼とその周辺の概況

オタドリ沼は、利尻島の南南東、沼浦地区に位置し（図1）ウルム氷期の爆裂火口跡にできた周囲1.3km、面積8ha、平均水深0.9mの島内で最も大きな沼である。この地区一帯は自然環境に恵まれ風光明媚なゆえに観光等で訪れる人も多く、環境等の変化が気づかれるところでもある。

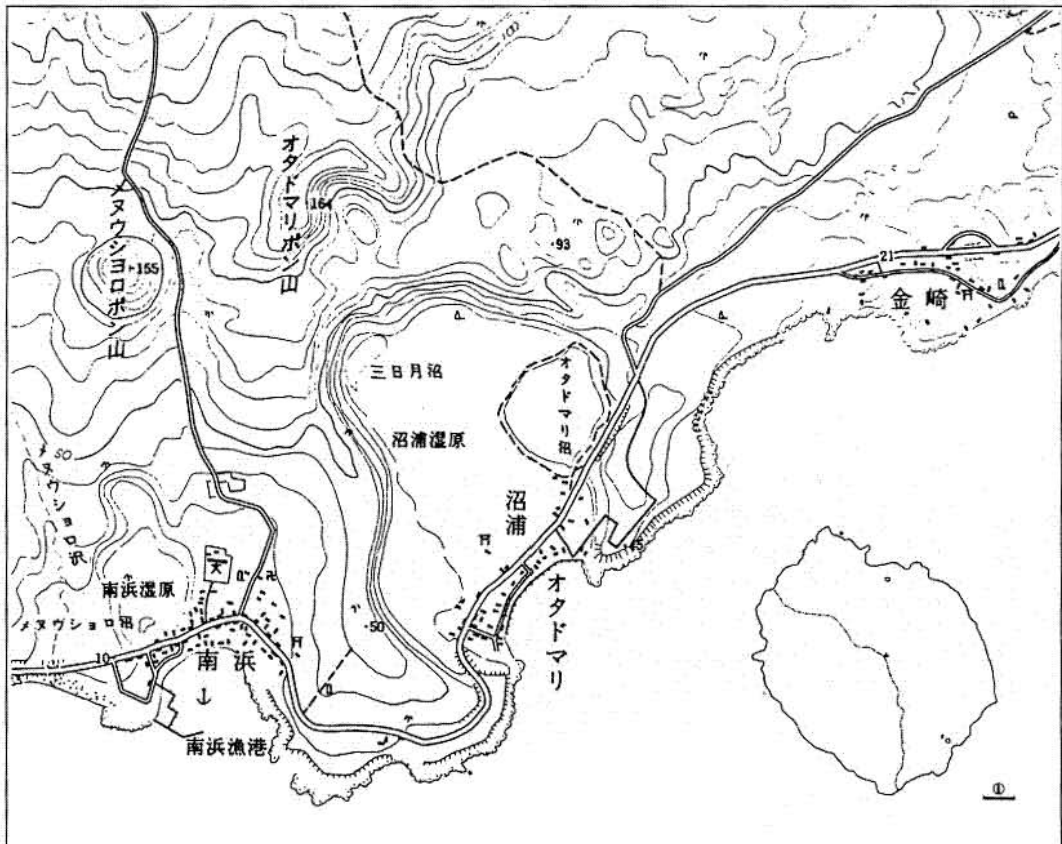


図1 オタドリ沼の位置と概念図

沼の周辺は、南側が海岸まで平坦で、あとの三方は小高い丘状となって沼を取り囲んでいるが、開放的である。

更に、東側は島内を一周する道路と接近し、急な斜面となってせりあがり、ヤナギやヤマグワ等の細い帯状の林となっている。北から西にかけては、アカエゾマツの林が広がり湿地となっている。そして、その林が途切れる辺りに0.8km程隔てて三日月沼と呼ばれる小さな沼がある。南側は、観光用のレストハウスやトイレ等の建物が建ち駐車場が設置され、民家も数軒近くに建っている。

沼岸にはキタヨシが密生し、北側と南側は特に湿地が広く、キタヨシのなかにヒオウギアヤメ、エゾイソツツジ、ハイイヌツゲ等が点在し、北側沼中にはネムロコホウネの群落が見られる。そして岸に沿って沼を一周する遊歩道があり、幅1m程で両側にはリシリツタウルシ、コクワ、ヤマブドウ、ツルウメモドキ、アキグミ、ヤマグワ等が点在し、特にヤナギが多く見られる。

他に、の地域で観察できる鳥類以外の動物として、哺乳類では昭和8年に移入されたイタチだけが少数観察される。又、沼にはフナ、ドジョウの魚類が生息しサギ類やトビの餌になっている。昆虫類では、遊歩道にアリの巣が多く観察されるとともに、晩夏の頃からトンボが多く飛びその種類も多い。

## 2. オタドマリ沼の季節変化

オタドマリ沼は、例年4月中旬頃まで氷で覆われ、10日程かけて徐々に水面が開き下旬にはすっかり氷も融け、ウミネコ、オオセグロカモメといったカモメ類が姿を見せ出す。そして、沼岸ではハクセキレイやアオジといった渡来の早い夏鳥が見られるとともに少数のカモ類が飛来しだす。

春季の渡り期は5月上旬から下旬までが最も盛んで、夏鳥の渡来とあいまって賑やかな時期であ

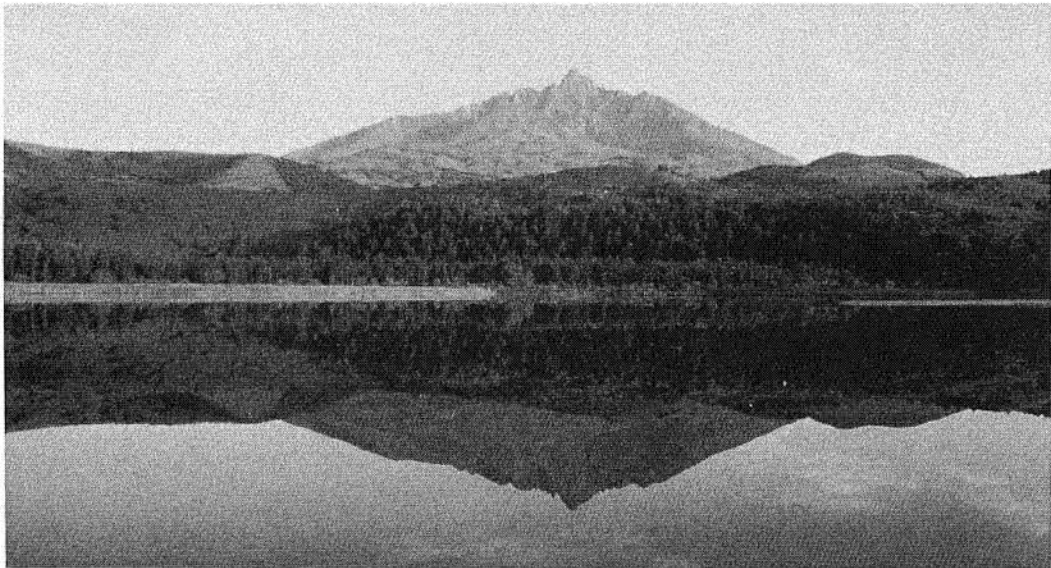


写真1 オタドマリ全景(南側沼岸より)

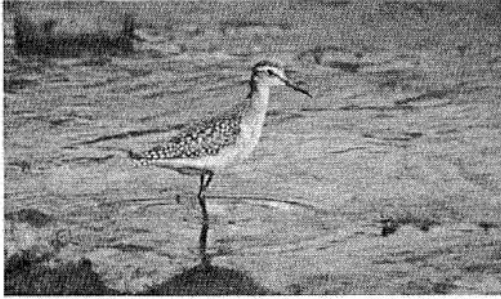


写真2 1988. 8. 28 タカブシギ 1988年にはこのように沼岸が干潟化し、そこへ多くのシギ・チドリ類が訪れた。



写真3 1988. 5. 5 ダイサギとコサギ  
サギ類が比較的多く観察されるのも特徴である。

る。しかし、その時期を過ぎて6月になると、夏鳥だけとなりそれらも繁殖期となり多くは観察されない。又、この時期から利尻島の観光シーズンが始まりハシブトガラスが人の残飯を狙って集まるのが多くなる。

7月になると、繁殖の早いハクセキレイやノビタキ等の幼鳥が見られるようになり、通常であればこの様な状態が8月下旬頃まで続くが、1988年は夏期の雨量が極端に少なかったために沼の水位が下がり沼岸が干潟化しシギ・チドリ類の絶好の採餌箇所となったことで8月中旬からシギ・チドリ類が良く観察された。

8月下旬からいよいよ秋季の渡りが始まるが、カモ類がほとんどで9月中旬には夏鳥の多くが渡去し、10月にはツグミや少数のミヤマホオジロが見られると後は、渡去の遅いベニマシコ、カワラヒワ、ハクセキレイ等が時折見られるだけとなる。

10月下旬頃からいよいよ水面が凍ったり融けたりを繰り返す、僅かに残った水面を見つけてはカモメ類や少数のカモ類が最後に訪れ、11月下旬には完全に氷で覆われる。

水面が閉ざされてからは、アカエゾマツの林にカラ類や少数のケラ類が見られるだけとなる。

### 3. オタドマリ沼で観察された鳥類

1987年から1988年までの2年間に観察された種は次のとおりである。尚、夏鳥、冬鳥、留鳥、旅鳥の区分については利尻島を基準にした。

#### カイツブリ目 PODICIPEDIFORMES

##### カイツブリ科 Podicipitidae

#### 1. カイツブリ *Podiceps ruficollis* 旅鳥

1987, 11, 2 に1羽がキンクロハジロと共に観察され、11, 7には同一個体と思われる1羽がメヌウシヨロ沼でも観察された。1988, 5, 3には1羽だけ観察された。

コウノトリ目 PELECANIFORMES

サギ科 Ardeidae

2. ゴイサギ *Nycticorax nycticorax* 旅鳥

1988, 10, 9にカラスに追われアカエゾマツの林に逃げ込む成鳥1羽が観察された。

3. アマサギ *Bubulcus ibis* 旅鳥

1987, 9, 2～5に沼岸又は樹上に観察された。9, 2は1羽だったが9, 5には3羽が観察された。1988, 5, 21には1羽が沼岸で観察された。

4. ダイサギ *Egretta alba* 旅鳥

1988, 5, 2～7までの6日間沼岸に1羽が観察された。

5. チュウサギ *Egretta intermedia* 旅鳥

1988, 5, 2, 3の2日間沼岸に1羽が観察され、5, 21にも1羽が観察された。

6. コサギ *Egretta garzetta* 旅鳥

1987, 9, 2沼岸に1羽が観察された。88, 5, 5 前述のダイサギと共に観察された。

7. アオサギ *Ardea cinerea* 旅鳥

1987年は、8月上旬から4～5羽が9月下旬まで観察され、最大数は7羽だった。1988年は、3月下旬に渡来し、断続的に5月下旬頃まで観察された後、8月上旬まで観察は無く、10月下旬まで1～2羽が観察された。

ガンカモ目 ANSERIFORMES

ガンカモ科 Anatidae

8. オシドリ *Aix galericulata* 旅鳥

1988, 7, 9～11までの3日間に1羽(若鳥or雌)が観察された。同年9, 18雌1羽観察された。

9. マガモ *Anas platyrhynchos* 旅鳥

1987, 11, 2に雌1羽、同年11, 15には雄(繁殖羽)が1羽観察された。1988, 10, 23は雄1羽、同年11, 12に雌1羽が観察された。

10. カルガモ *Anas poecilorhyncha* 旅鳥

1987, 9, 23に1羽が観察された。

11. コガモ *Anas crecca* 旅鳥

オタドマリ沼に飛来するガンカモ科の種ではもっとも数が多く、飛来期間も長い。

1987年の初認は8, 30、終認は10, 18。1988年は初認が9, 4、終認は10, 23であった。

いままでの最大数は13羽で、春季の飛来は極端に少なく1988年は5, 15に1つがいただけであった。

12. ヒドリガモ *Anas penelope* 旅鳥

1988, 5, 21～7, 10まで雌1羽が断続的に観察され、1988, 10, 8～9には1羽が観察された。

13. オナガガモ *Anas acuta* 旅鳥

コガモに次いで多く飛来する種である。1987年の初認は10, 17、終認は11, 7。1988年は初認10, 8, 終認10, 23であった。又、コガモと同様で春季の飛来は少ない。

14. ホシハジロ *Aythya ferina* 旅鳥

利尻島では秋季の遅い時期に港内等で少数が観察されるが、オタドリ沼では1987, 11, 2に雄1羽が観察されただけである。

15. キンクロハジロ *Aythya fuligula* 旅鳥

1987, 11, 2に雄1羽。1988, 10, 2に雄1羽が観察された。

16. スズガモ *Aythya marila* 旅鳥

利尻島でも観察例が少なく、1988, 7, 11の夏期に1羽が観察され9, 23にも雄1羽が観察された。

17. ホオジロガモ *Bucephala clangula* 旅鳥

スズガモと同様で利尻島でも観察例が少なく、1988, 11, 6に雌1羽が観察された。

18. カワアイサ *Mergus merganser* 旅鳥

1987, 11, 7~8 5羽が観察された。

ワシタカ目 FALCONIFORMES

ワシタカ科 Accipitridae

19. トビ *Milvus migrans* 夏鳥

利尻島ではオタドリ沼付近だけで観察され、毎年4月上旬に渡来し10月下旬頃まで観察される。繁殖の可能性があるが幼鳥や若鳥の観察は無い。

20. ハイタカ *Accipiter nisus* 夏鳥

1988, 8, 28に沼岸で採餌中のトウネンを狙い降下するのが1羽観察された。

21. ハヤブサ *Falco peregrinus* 夏鳥

1988, 10, 2~16までの間、1羽観察され、よくコガモの群れを狙っていた。

22. チゴハヤブサ *Falco subbuteo* 旅鳥

1988, 9, 18 (ワシタカ類渡り調査時) に上空でトンボを捕らえているのが2羽観察された。

ツル目 GRUIFORMES

クイナ科 Rallidae

23. ヒメクイナ *Porzana pusilla* 旅鳥

1988, 5, 7~21まで沼岸のキタヨシの茂みの中などを出入りしているのが観察された。

チドリ目 CHARADRIIFORMES

チドリ科 Charadriidae

24. コチドリ *Charadrius dubius* 旅鳥

1988, 8, 12~14に1羽が他のシギ科の種と共に観察された。

25. メダイチドリ *Charadrius mongolus* 旅鳥

利尻島では、秋季の渡り期に海岸で多く観察される種である。1988, 9, 12に1羽が他のシギ科の種とともに観察された。

## シギ科 Scolopacidae

26. トウネン *Calidris ruficollis* 旅鳥

メダイチドリと同様で海岸で多く観察される。1988, 8, 27~9, 11まで3~4羽が観察された。

27. アオアシシギ *Tringa nebularia* 旅鳥

1988, 9, 11に1羽が沼岸で他の種とは離れて観察された。

28. クサシギ *Tringa ochropus* 旅鳥

1987, 10, 4に3羽が沼岸で観察された。1988, 5, 7には2羽が沼岸で観察された。

29. タカブシギ *Tringa glareola* 旅鳥

1988年に、最も多く飛来した種である。8, 9に初認し、9, 11まで観察され最大15羽を数えた。

30. キアシシギ *Tringa brevipes* 旅鳥

海岸では最も飛来数の多い種であるが、1988, 8, 14に1羽観察された。

31. イソシギ *Tringa hypoleucos* 旅鳥

1988, 5, 7に1羽、1988, 8, 27に1羽が沼岸で観察された。

32. オオジシギ *Gallinago hardwickii* 夏鳥

5月上旬からディスプレイ・フライトが観察されるとともに、早朝採餌しているのが観察された。

33. タシギ *Callinago gallinago* 旅鳥

1988, 5, 12の早朝沼岸で採餌しているのが2羽観察された。

## ヒレアシシギ科 Phalaropodidae

34. アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus* 旅鳥

1988, 9, 18に群れからはぐれたと思われる1羽が観察された。その時期8, 20に海上で南下群が少数で観察された。

## カモメ科 Laridae

35. ユリカモメ *Larus ridibundus* 旅鳥

1988, 11, 6に若鳥3羽が観察された。

36. オオセグロカモメ *Larus schistisagus* 留鳥

水面の水が融け始める頃から水面が凍るまで観察される。数は多い。

37. ワシカモメ *Larus glaucescens* 冬鳥

10月上旬に渡来し、オオセグロカモメと共に観察された。

38. シロカモメ *Larus hyperboreus* 冬鳥

10月上旬に渡来し、オオセグロカモメと共に観察された。

39. カモメ *Larus canus* 旅鳥

1988, 12, 4にオオセグロカモメ群中に100羽程が観察された。当日及び前日は低気圧の通過に伴い大荒れの天候であった。

40. ウミネコ *Larus crassirostris* 夏鳥

オオセグロカモメと同様で水面が開いている間中観察される。

ハト目 COLUMBIFORMES

ハト科 Columbidae

41. キジバト *Streptopelia orientalis* 夏鳥

5月中旬に渡来し、遊歩道脇や上空を飛ぶのが観察された。

ホトトギス目 CUCULIFORMES

ホトトギス科 Cuculidae

42. カッコウ *Cuculus canorus* 夏鳥

他の地域に比べて、観察例は少ない。

43. ツツドリ *Cuculus saturatus* 夏鳥

カッコウと同様で、観察例は少ない。

アマツバメ目 APODIFORMES

アマツバメ科 Apodidae

44. ハリオアマツバメ *Chaetura caudacuta* 夏鳥

6月上旬に渡来し、アマツバメの群れに混じって少数が観察された。

45. アマツバメ *Apus pacificus* 夏鳥

6月上旬に渡来し、9月下旬頃まで観察された。

ブッポウソウ目 CORACIIFORMES

カワセミ科 Alcedinidas

46. カワセミ *Alcedo atthis* 旅鳥

1988, 9, 18、博物館主催の探鳥会時に1羽が観察された。利尻島では繁殖していないと考えられ漂行による迷行例と思われる。

キツツキ目 PICIFORMES

キツツキ科 Picidae

47. アリスイ *Jynx torquilla* 夏鳥  
4月下旬に渡来し、その時期囀りが多く聞かれるが、夏期の観察は少なくなる。
48. アカゲラ *Dendrocopos major* 留鳥  
少数ではあるが、周年観察される。
49. コアカゲラ *Dendrocopos minor* 留鳥  
1988, 11, 8に沼岸の柳の枝で採餌している1羽が観察された。

スズメ目 PASSERIFORMES

ヒバリ科 Alaudidae

50. ヒバリ *Alauda arvensis* 夏鳥  
3月下旬に渡来し、駐車場付近等でその時期だけ観察される。

ツバメ科 Hirundinidae

51. ショウドウツバメ *Riparia riparia* 旅鳥  
1988, 5, 7ツバメ群中に1羽が観察されたが、利尻島では現在のところ繁殖は確認されていない。
52. ツバメ *Hirundo rustica* 旅鳥 (一部が繁殖)  
1987, 9, 2~5までの間、300羽程の南下する群れが観察された。  
1988, 5, 5~22までの間、50羽程の群れが観察され、1988年は利尻島でも繁殖することが確認された。
53. コシアカツバメ *Hirundo daurica* 旅鳥  
1988, 5, 5~22までの間、前述のツバメ群中に3羽が観察された。

セキレイ科 Motacillidae

54. ツメナガセキレイ *Motacilla flava* 旅鳥  
1988, 5, 12~25までの間3羽が沼岸で観察された。いずれもキマユツメナガセキレイ (*M.f. taiu-ana*)であった。
55. キセキレイ *Motacilla cinerea* 夏鳥  
3月下旬に渡来するが、その数は少なく、9月中旬に若鳥が多く観察された。
56. ハクセキレイ *Motacilla alba* 夏鳥  
3月下旬に渡来し、11月中旬に渡去する。オタドリ沼では多く観察される種である。7月上旬になると幼鳥が観察されだす。



モズ科 Lanidae

57. モズ *Lanius bucephalus* 夏鳥

5月上旬に渡来し、その時期にはよく観察されるが、夏期から秋季には観察されなくなる。

ツグミ亜科 Turdinae

58. コマドリ *Erithacus akahige* 夏鳥

4月から囀りが聞かれ、沼周辺の笹藪に多い。

59. ノゴマ *Erithacus calliope* 夏鳥

4月下旬に渡来し沼岸近くのイタドリの茂みで観察された。

60. ルリビタキ *Tarsiger cyanurus* 夏鳥

4月下旬に渡来し、最初は雌と若鳥が多く観察され、夏期から秋季には観察例が少ない。

61. ジョウビタキ *Phoenicurus aurorous* 旅鳥

春季と秋季の渡り期に少数が観察される。1988, 5, 8と10, 16に1羽が観察された。

62. ノビタキ *Saxicola torquata* 夏鳥

4月下旬に渡来し、その数も多い。

63. アカハラ *Turdus chrysolaus* 夏鳥

5月上旬に渡来し、その時期には多く観察された。

64. ツグミ *Turdus naumanni* 旅鳥

春季は4月上旬～下旬に飛来し、秋季は10月上旬～下旬に飛来する。但し1987年は多くの個体が越冬していた。

ウグイス亜科 Sylvinae

65. ヤブサメ *Cettia squameiceps* 夏鳥

数が多いものの藪中にいることと囀りが聞き取りにくく、オタドマリ沼では9月上旬～10月上旬に鳴声と姿が観察される。

66. ウグイス *Cettia diphone* 夏鳥

4月下旬に渡来し7月上旬頃まで囀りが聞かれ、その数が多い。

67. エゾセンニュウ *Locustella fasciolata* 夏鳥

6月上旬に渡来し、囀りが多く聞かれる。

68. シマセンニュウ *Locustella ochotensis* 夏鳥

6月中旬に渡来し、キタヨシの中に観察されることが多い。

69. キクイタダキ *Regulus regulus* 留鳥

秋季から春季までアカエゾマツの林中に少数が観察される。

## ヒタキ亜科 Muscicapinac

70. マミジロキビタキ *Ficedula zanthopygia* 旅鳥  
1988, 5, 26の早朝に沼岸の柳の枝に雌1羽が観察された。
71. キビタキ *Ficedula narcissina* 夏鳥  
5月下旬に渡来し、その時期少数が観察される。
72. ムギマキ *Ficedula mugimaki* 旅鳥  
1988, 5, 22の夕方に沼岸の柳の枝に雄1羽が観察された。
73. オジロビタキ *Ficedula parva* 旅鳥  
1988, 5, 22に前途のムギマキの観察直後、雄1羽が観察された。
74. オオルリ *Cyanoptila cyanomelana* 夏鳥  
5月上旬に渡来し、その時期少数が観察される。
75. サメビタキ *Muscicapa sibirica* 夏鳥  
5月中旬に渡来し、その時期採餌している個体が多く観察される。
76. エゾヒタキ *Muscicapa griseisticta* 旅鳥  
5月下旬に飛来し1週間程観察され、冬羽の個体が殆どである。秋季は9月中旬に飛来するがごく少数である。
77. コサメビタキ *Muscicapa latirostris* 夏鳥  
5月中旬に渡来し、サメビタキとともに多く観察される。

## エナガ科 Aegithalidae

78. エナガ *Aegithalos caudatus* 留鳥  
冬季だけアカエゾマツ林中に少数が観察される。
79. ハシブトガラ *Parus palustris* 留鳥  
周年観察される。夏期は沼岸付近でも観察されるが冬季にはアカエゾマツ林中から出ることはいない。
80. ヒガラ *Parus ater* 留鳥  
周年観察されカラ類ではもっとも数が多い。
81. シジュウカラ *Parus major* 留鳥  
周年観察されるが、多くはない。冬季はハシブトガラ同様沼岸付近での観察は少ない。
82. ルリガラ *Parus cyanus* 迷鳥  
1987, 11, 8に沼岸の柳の枝で採餌している1羽が観察された。

## ゴジュウカラ科 Sittidae

83. ゴジュウカラ *Sitta europaea* 留鳥  
周年観察される。

キバシリ科 Certhiidae

84. キバシリ *Certhia familiaris* 留鳥  
冬季だけアカエゾマツ林中に少数観察される。

ホオジロ科 Emberizidae

85. ホオジロ *Emberiza cioides* 旅鳥  
利尻島では旅鳥として観察され、オタドリ沼以外は観察例が少なく5月中旬に飛来する。
86. カシラダカ *Emberiza rustica* 旅鳥  
春季は4月下旬～5月上旬、秋季は10月中旬に飛来するが、秋季は少数である。
87. ミヤマホオジロ *Emberiza elegans* 旅鳥  
春季は3月下旬～4月上旬、秋季は10月中旬に飛来し、その数は多い。
88. シマアオジ *Emberiza aureola* 夏鳥  
5月下旬に渡来するが極く少数である。
89. アオジ *Emberiza sspodocephala* 夏鳥  
4月下旬に渡来し、10月下旬頃渡去する。その数は多く、オタドリ沼沿岸では優占種である。
90. オオジュリン *Emberiza schoeniclus* 夏鳥  
5月下旬に渡来するが、その時期に少数が観察される。1988年には11, 12に1羽が凍った水面に観察された。

アトリ科 Fringillidae

91. アトリ *Fringilla montifringilla* 旅鳥  
春季(4月下旬～5月中旬)だけ少数の群れで観察される。
92. カワラヒワ *Carduelis sinica* 夏鳥  
4月上旬に渡来し、10月下旬に渡去する。普通に観察される。
93. ベニマシコ *Uragus sibiricus* 夏鳥  
4月下旬に渡来し、11月上旬に渡去する。沼岸では普通に観察される。1988年には11, 12まで観察された。
94. ウソ *Pyrrhula pyrrhula* 留鳥  
利尻島ではウソ(*P.p.griseiventris*)、アカウソ(*P.p.rosacea*)、ベニバラウソ(*P.p.cassimii*)の3亜種が観察されるがオタドリ沼ではウソが夏期に観察される。

ハタオドリ科 Passerutilans

95. スズメ *Passer montanus* 留鳥  
春から秋までの間、付近の民家脇等で少数が観察される。

カラス科 Corvida

96. カケス *Garrulus glandarius* 留鳥

春季及び秋季に少数が観察される。

97. ホシガラス *Nucifraga caryocatactes* 留鳥

秋季に稀に観察される。

98. ハシボソガラス *Corvus corone* 留鳥

周年観察されるが、数は少ない。

99. ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* 留鳥

周年観察され、その数も多い。但し、冬期間はハシボソガラスとともに上空を飛ぶのが時折観察されるだけである。

4. 考 察

オタドリ沼で観察された種は以上の99種であるが、この他1987, 9, 27にクロハラアジサシ類のいずれかの種に属する個体が7羽観察され、1988, 10, 29~30にはオオハクチョウかコハクチョウかのどちらかの種が10羽飛来していた情報がある。

観察された99種中、水鳥36%、陸鳥64%となっており、オタドリ沼で観察される鳥類の特徴と

分 類	オタドリ沼		利 尻 島	
	種 数	割合(%)	種 数	割合(%)
夏 鳥	34	34	74	41
冬 鳥	2	2	20	11
留 鳥	16	16	25	14
旅 鳥	47	48	62	34
計	99	100	181	100

して水鳥類の多いことが挙げられる。又、これらの水鳥類はガン・カモ科とサギ科が主で、春秋の渡り期だけに観察されるものが多く、利尻島で観察される水鳥類のほとんどが海鳥類の一部を除き観察されることになる。

表1. オタドリ沼と利尻島での観察種の比較

表1は、これまでにオタドリ沼と利尻島で観察された種を4つのグループに分類し、比較したものである。どちらも傾向としては同様であり、夏鳥、旅鳥が8割程を占めており、オタドリ沼ではそれが一層顕著となる。特に、旅鳥が全体の半分近くの48%を占めており、これは湖沼地帯であることと狭い範囲ながら湖沼、湿



写真4. 1988, 5, 21 ヒドリガモ(♀) 遊歩道脇で草の葉を食べていた。

地、草原、森林等といった様々な環境が集まっていることに因るものと思われる。例えば利尻島の北側の姫沼と比較した場合、姫沼は周囲0.8kmでオタドリ沼より小さく標高150mの山中にあって背の高いエゾマツやトドマツに囲まれており、環境は森林地帯に近い。鳥類もカラ類やキツツキ類といった森林性のものが多く、春・秋の渡り期に極く少数のカモ類等が観察されるだけで、オタドリ沼の環境が一層興味深いものとなる。

分 類	春 季	秋 季
カイツブリ科	0	1
サギ科	6	4
ガン・カモ科	2	11
ワシ・タカ科	0	1
クイナ科	1	0
シギ・チドリ科	3	9
カモメ科	0	3
カワセミ科	0	1
ツバメ科	3	1
小型鳴禽類	11	6
計	26	37

表2 春季と秋季の飛来種数の比較

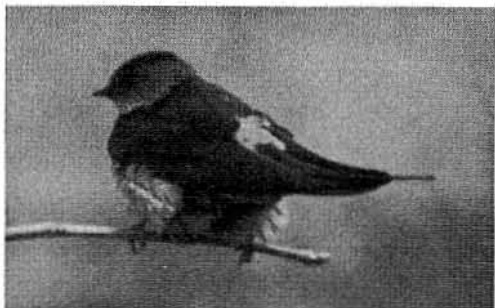


写真5. 1988. 5. 7コシアカツバメ

とおり1988年特有のものであり、1987年では飛来数は少ない。1979, 7, 28の早稲田大学生物同好会の観察でも渡り期として時期は早いクタカブシギ3羽を観察しただけであり、すぐに飛び立ったことから岸辺の湿地が発達していないことをあげており(早稲田大学生物同好会1980)通常では春・秋とも飛来は少なく大差はない。

更に、小型鳴禽類とした種では、春季だけの記録がマミジロキビタキ、オジロジタキ、ムギマキ、アトリ、ホオジロ、ツメナガセキレイの6種、春季・秋季どちらも記録されたのはジョウビタキ、ツグミ、エゾヒタキ、カシラガタ、ミヤマホオジロの5種、秋季だけの記録はルリガラだけであり、これらを考え併せれば春季・秋季における差異はそれほど大きくないものの春季(5月上旬)には飛来が多いようである。

以上のことから、利尻島に飛来する旅鳥にとってオタドリ沼はとりわけ重要な地域であり、荒天時に通常飛来することのない種が度々観察されることから避難地としても利用されていることが考えられる。

最後に、オタドリ沼が利尻島で野鳥観察をする際、身近で自然環境に恵まれ、多くの鳥たちと出会える素晴らしいフィールドであることを思い、いつまでもその環境が鳥たちとともに保たれることを切望する。

小杉和樹 日本野鳥の会道北支部会員

夏鳥の繁殖についてはほとんどが未調査であるために報告出来ないが、夏鳥の大部分は沼周辺で繁殖していると考えられる。しかし、表1で明らかなように夏鳥は利尻島で記録された半数程度で湿地を好むシマアオジやオオジュリンでさえ少数が観察されるだけであり、その他についても繁殖期の観察例は多くない。これはオタドリ沼の広さや、人的な影響によると思われる。

又、「利尻島の鳥」(小杉1988)で課題とした、湖沼地帯でのカモ類繁殖(斉藤1974)についてはこの2年間で確認は出来なかったが、繁殖期の記録としてオンドリ、ヒドリガモの2種があった。

表2は、オタドリ沼における旅鳥の春季と秋季の飛来を種数で比較したものである。

単純に種数で比較したばかり、秋季の渡り期に観察される種が多いものの、ガン・カモ科のように春季の渡り期には沼が結氷して飛来出来ず、他地域の融雪によって出来た水溜まりなどへ飛来していることもある。又、シギ科の種についても前述の

## 引用文献

早稲田大学生物同好会 1980：「利尻島の動植物」早稲田生物22

齊藤晴雄 1974：「宗谷地方の野鳥」（最北の秘境国立公園利尻礼文サロベツ所収）

小杉和樹 1988：「利尻島の鳥」利尻町立博物館年報No7：43～54